

セコムが提案する EBM

第1回 藤田医科大学ばんだね病院(名古屋市中川区)

急性期激戦区で生き残るために 自院の経営実態をデータで即座に可視化

関塚永一

セコム医療システム株式会社顧問
国立病院機構埼玉病院名誉院長
慶應義塾大学医学部客員教授

名古屋市の中心部からほど近く、下町風情を残す中川区に所在し、設立91年目を迎える藤田医科大学ばんだね病院。「ばんだねさん」の愛称で親しまれる同院は、急性期病院激戦区のみならず、急性期病院として勝ち残る決断を下す。そこで同院が着手したのが自院の患者動向、診療内容の徹底した可視化と、その内容の現場へのフィードバックだ。セコム医療システム株式会社の病院経営情報分析システム「セコムSMASH」は、その礎となっている。

身近で頼れる
「ばんだねさん」

藤田医科大学ばんだね病院の前身は1930年、財団法人坂文種報徳会によって地域の低所得者を対象とした医療救済・社会福祉事業に寄与することを目的に開院された。71年に藤田医科大学を運営する藤田学園にその事業運営を移行した後もその精神は引き継がれ、今でも地域では「ばんだねさん」の愛称で親しまれている。

でも、4床を感染患者受け入れ用に確保したほか、発熱外来やPCR検査体制を整備、今月からは「第4波」を念頭に置いた増床工事に入った。一方、同院の位置する名古屋市区でも屈指の急性期病院激戦区でもある。大学病院や公立病院、公的病院などがひしめくなかでどのような「勝ち残り」を図るべきか。急性期を脱した患者を受け入れる回復期以降の医療機能を担うという案もあったが、出した結論は「地域密着型の急性期病院として生き

ていく」だった。高齢化の進む同地域には、「身近な急性期病院」が必要という考えがあり、「困ったときは、ばんだねさん」という地域の信頼も無視できなかった。実際、救急搬送受入件数は年間3500件を超す。地域の医療需要から見ても、機能の転換は考えにくかった。

これまでの分析に加えて、新たに「セコムSMASH」をフル活用

急性期病院としての勝ち残りに向けて、セコム医療システム株式会社の病院経営情報分析システム「セコムSMASH」を導入した。「セコムSMASH」のメリットはE・Fファイル等のデータをアップするだけで入院・外来の収入、平均在院日数、延べ患者数、平均患者単価などを診療科別に示し、患者単価や在院日数を入院経路別や術式別など多角的に分析でき、かつそれらを1クリックで表示できる点だ。これまではE・Fファイルや電子カルテシステムから抽出したデータを基に医事課で何工程もかけ集計していたが、作業時

間が大きく短縮された。ばんだね病院の村井崇彦・医事課長は、業務負担の軽減を強調する。「導入前まではE・Fファイルのデータをアクセスに取り込み、さらにエクセルデータと結合して集計——といった手間がかかっていました。資料を作ること自体が業務目的のようになっていたものが改善されました。この差は大きいです」

高い効果を実感できたため、藤田医科大学病院で戦略企画部を経験している濱野和治事務部長の提案で法人本部、藤田医科大学病院、岡崎医療センターでも「セコムSMASH」を導入し、最大活用をめざしている。

診療科ごとの傾向を可視化し
具体策に結びつける

「セコムSMASH」で分析したデータをもとに、各診療科に次の提案を行った。

- ・DPC期間II末日より在院日数が長い/短い診断群の一覧
- ・年度別紹介元別入院患者数および収入の増減
- ・年度別救急搬送後入院患者数および収入の増減

度別手術件数や疾患別の「重症度、医療・看護必要度」、あるいは診療科ごとのMDC(主要診断群分類)の医療資源投入量なども簡単な操作でデータを用意できる。こうしたタイムリーかつ「かゆいところ」が手届くデータを提示できるようになったことで、医療現場の行動変容にも貢献できるようになった。



濱野和治事務部長



村井崇彦・医事課課長

「セコムSMASH」はただ数字の羅列で示すのではなく、容易にグラフ化することも可能である。見やすく、わかりやすいデータを示すことで、医師の関心も高まり、クリニカルパスの見直しに繋がった症例もある。

地域密着型の急性期病院という道を選択したばんだね病院だが、その「内容」については精査が続く。コロナ禍で外出機会が減り、外傷による救急搬送症例は減少する一方で、高齢化とともに増加傾向にある心肺停止状態の患者の搬送受入ニーズは高まっている。いずれも医療設備の見直しを迫るものだけに、裏付けに基づいた慎重な判断が求められる。その貴重な材料を提供するのが、「セコムSMASH」というわけだ。

濱野事務部長はデータに基づいた経営分析の必要性について次のように語る。「EBM(Evidence Based Medicine)度はさらに高まろうとしている。

藤田医科大学ばんだね病院

所在地: 愛知県名古屋市
中川区尾頭橋3-6-10
電話: 052-321-8171
病床数: 370床(7対1病床
360床、ICU10床)
職員数: 746人(医師122
人、看護師316人)

1930年、財団法人坂文種報徳会が地域の低所得者を対象とした医療救済・社会福祉事業に寄与することを目的に開院。71年、学校法人藤田学園に運営を移行。名古屋市中心部に位置する都市型病院であるとともに地域に根をおろした地域密着型の総合病院として機能している。